

## 稲の収穫体験学習にみんなで取り組みました！

9月29日(木)午後からスクールバスをお願いして、みんなで小又の田んぼに行き、稲の収穫作業を体験しました。田んぼアートの中から世話になっている小又の小畑さんと久保さんが、子どもたちの学習のため、昔の農具の唐箕(とうみ)や脱穀機を用意して下さり、昭和初期の農法も体験できました。子どもたちは4つのグループに分かれて、鎌での稲刈り、稲刈り機を使った稲刈り、脱穀機を使っての脱穀作業、唐箕を使っての選別作業を指導して頂きました。

稲の根本を掴んで鎌で刈る動作をスムーズにできる子と上手く刈れるまで時間がかかる子といましたが、何回かチャレンジしている内にコツをつかんでみんな上手く鎌を使いこなしていました。刃物は使い方を誤ると危ない道具ですが、使い方を学んで自分の手元と自分の周りに注意をはらって使うと安全に使い、上達します。正しい使い方を教え、実際にやらせることにより道具の使い方が習得でき、学びの蓄積につながるのだなあとあらためて思いました。そして、刈った稲の束を紐で結んで、竿に掛ける作業で、はじめは上手く結ぶのに四苦八苦していた子が徐々に慣れてしっかり結ぶことが出来るようになりました。

唐箕や脱穀機の体験では、電気などの動力ではなく、人力で動かす機械の機能に子どもたちは大変驚き、昔の農家の人々の知恵の凄さに感心していました。脱穀機で実際に自分たちが刈り取った稲束の稲穂を回転する針金の場所に乗せると、稲穂の稲の粒がはじけるように稲から離れていくのでどの子も感動していました。唐箕では取っ手を回転させ、脱穀したもみ粒を上から入れると、風の力で藁(わら)などのごみが吹き飛び、実の詰まったもみが下に落ちるので実際に体験作業をした子どもたちは脱穀機と同様に感動していました。

高学年の子どもたちは、小型稲刈機(コンバイン)で稲を刈る作業を体験してもらいました。鎌で稲を刈り取る作業をした後だったせいか、凄く便利な機械やなあと実感していました。

この体験学習で子どもたちは、学校内では得られない学びを体験することができました。小畑さん、久保さん、地域の方々には子どもたちの学びのために、ご支援頂きありがとうございました。



